



今回は、SGH・課題解決型キャリア研究に係る講演会の情報をお伝えします。**講師は本校 SGH のアドバイザーで富士通総研シニアコンサルタントの若生幸也(わかお たつや)氏**で、課題研究に取り組んでいる 1 年生全員が受講しました。

◇ 平成 26 年度 第 2 回 SGH 講演会

- 日 程 平成 26 年 9 月 11 日 (木) 14:15~16:05
- 会 場 本校体育館
- 演 題 「課題研究の要点と方法～公共政策の視点から～」
- 概 要



1 大学で学んだことと仕事で求められること

- ・職業は自分のしたいことをするための手段である。
- ・何をしたいか分からなければまず勉強をする。
- ・解を求めて議論する。しかし、答えは一つではない。
- ・縁(人との出会い)を大切にす。興味があれば自分から会いに行く。
- ・その時にしかできないことに取り組む。
- ・**考え抜く力(知的体力)、論理的思考力、コミュニケーション能力が大切**である。

2 課題研究の進め方と研究の方法

- ①テーマの選定：問う意義があるか<未解明であるか<答えが出るか
- ②仮説の設定：原因から結果に至るまでの問題を仮構する(疑問→因果関係)
- ③仮説の検証：
 - ⇒現状の把握：文献・統計調査(書籍、CiNii、googleニュース、生活ガイド.com等)
 - ⇒原因の探求(現場に足を運ぶ)
 - [インタビュー調査] 政策担当者・有識者に現状・課題等を聞く：全体→個別
 - [アンケート調査] 全体・属性別の傾向を把握する：1つの質問で1つの回答、誘導しない、5W4H(When, Who, What, Where, Why, How, How long, How many, How much)
 - [先進事例調査] 提言に活かすため先進事例を調査する→類似性
 - [分析] 真の課題・要因を洗い出す：時系列比較、類似団体比較、近隣団体比較、基準値比較
- ④政策の提案：社会問題を解決するための方向性と具体的な手段を示す。

◇ 生徒の感想

- ・まずは疑問をもつことが大切であること、そこから仮説を立て検証し、「分かった！」と思うことが重要だと分かりました。インタビューをしたりして課題研究を進めていく方法もあると分かりました。
- ・SGHでは刃物の世界進出について調べています。知りたい情報を重点的に調べ、**自分だけでなく誰かのため、社会のための課題研究にできたらいいなと思います。**インタビューやアンケートも積極的に行っていきたいです。
- ・今の世の中の現状を理解、把握してから自分の調べたいことを追求していくことが大切だと思いました。「当たり前」に縛られず、**自分の意見を主張していきたいです。**
- ・英語を道具として使いこなすには、使用する人間の知的体力も必要だと思いました。
- ・課題研究について、**疑問をもち、興味をもつことが大切**で、先生に聞いたり自分で解決したりすることが大事だということが分かりました。